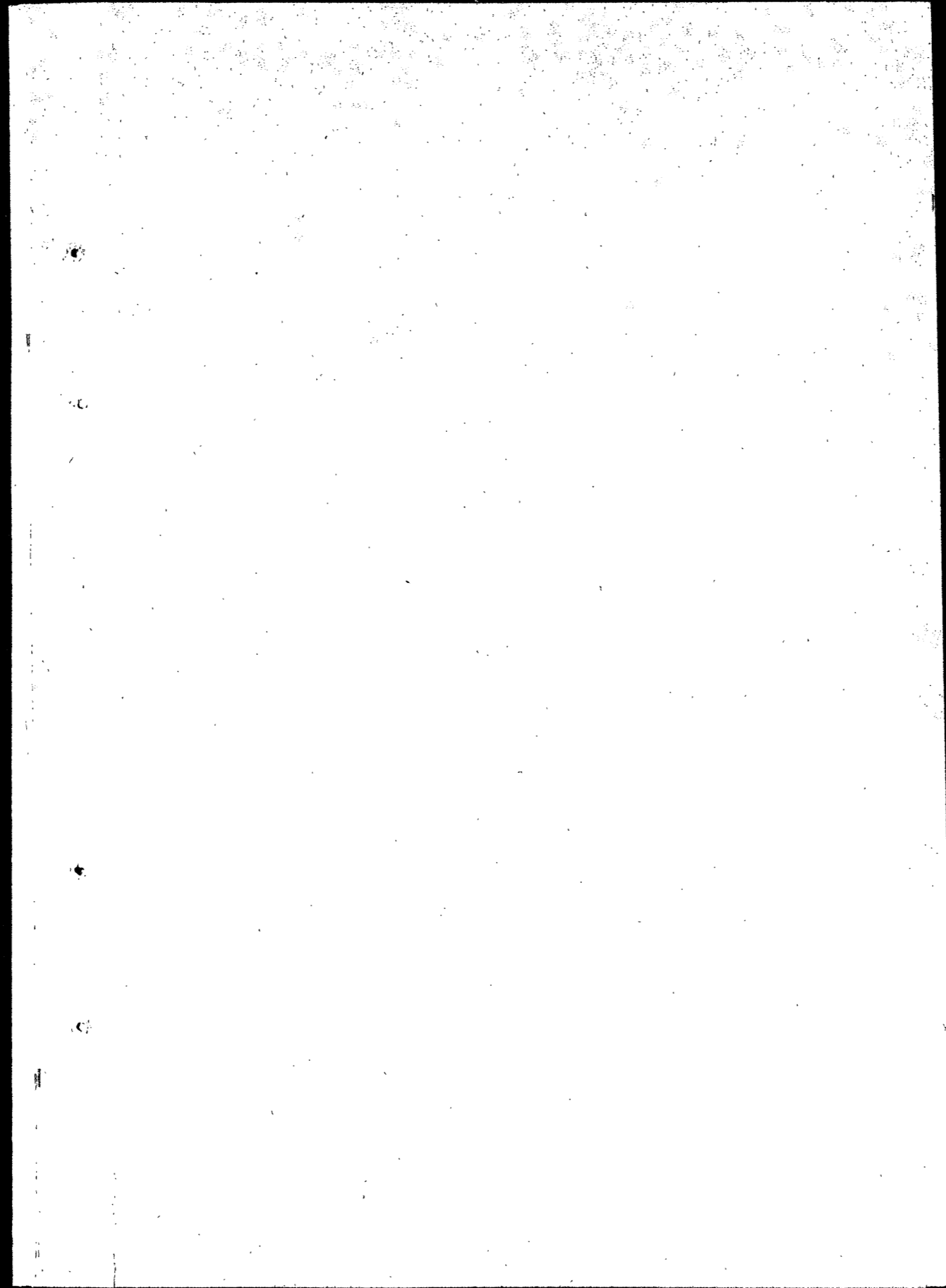




国立公文書館	
分類	③ ④
排架番号	3 A
	15
	66-7

66-7



WD 223152

43

秘

昭和十九年度物資動員計畫運營ニ關スル件

軍 昭一九 三 二五
需 省

大本營政府連絡會議說明資料

一、經過概要

來年度ノ重要物資ノ供給力ニ關シマシテハ爰ニ昨年九月ニ戰力及輸
送力増強ニ關スル非常措置ガ決定セラレ之ヲ基礎ト致シマシテ一應
ノ見透ヲ續テタノデアリマス、而シテ其ノ内容ハ十九年度以後ニ於
テハ決戦ノ要請ニ即應致シマシテ之ガ需要ヲ概ネ充足スベキ目標ヲ
樹立シ之ヲ達成スベキ施策ノ概要ヲ定メタノデアリマシテ政府ハ之
ガ達成ニ全力ヲ盡シテ參ツタノデアリマスガ、其後ノ經過ヲ見マス
ト甲、乙運船及機帆船動員ノ遲延等ニヨル輸送力増強ノ不足ヲ主タ
ル原因トシ資材入手ノ不圓滑ニヨル建設ノ遲延等ノ影響ヲ受ケマ
シテ遂ニ豫定致シマシタ供給力ニ對シ相當ノ不足ヲ來スベキコトガ
豫想セララルニ二リマシタノデアリマス、然ルニ此ノ間戰局ハ更ニ激化シ
キ對策ヲ決定致シタノデアリマス、

裏面白紙

66-7

ニ船舶損耗ノ増加及其ノ他作戦上ノ要請ニヨリ今次船舶ノ徴備ヲ見
ルニ至リ茲ニ更ニ物資供給力ノ基底タル輸送力が大變動ヲ受ケルコ
トトナリ之ヲ基礎トシテ更ニ主要物資ノ供給力ヲ検討致シマシタ結
果其ノ見透ヲ概定シマシタ來年度第一四半期ノ開始モ後數日ニ迫ツ
テ居リ之ガ實施計畫ヲ至急決定スルノ要ガアリマスノデ茲ニ本案ヲ
提案致ス次第デアリマス

ニ 十九年度物資動員計畫ノ總管ハ今後ノ戦局ノ推移ニヨリ左右セラ
ルル處多大ナルモノガアリマスノデ今後一年間ニ亘リ嚴密ナル計畫
ヲ樹立致スコトハ到底不可能デアリマシテ明年度ニ付キマシテ八年
間計畫ニ付テハ施策ノ基礎タルベキ主要物資ニ限り一應ノ見透シヲ
付ケルニ止メ差當リ第一四半期ノミニ付實施計畫ヲ作成實施スルコ
トト致シタイト存ズルノデアリマス

三、 今回ノ船舶徵備ニヨリマシテ主要物資ノ供給力ノ見透ハ幾ノ物動
大綱當時ノ豫定ニ對シ超重點物資デスノ二割ニ及ブ減少トナリマス
コトハ以下甲上ゲル通デアリマス。而モ既ニ事變以來約七年大東亞
戰爭以後ノ苛烈ナル戰局ヲ二年以上モ支ヘテ參リマシタ我國經濟力
ハ潛在的余力ヲ殆ンド喪失シテ居リマス。斯ル狀況ニ於テ此ノ難局
ヲ打崩致ス爲ニハ有ラユル犧牲ヲ願ミズ國力ヲ徹底的ニ戰力增強ノ
一點ニ集中シテ之ガ強行突破ヲ圖ルノ外途ガ無イノデアリマス
而シテ之ガ重難ハ航空兵器ノ生産船舶ノ損耗防止ト小運送ヲ含ム海
陸輸送力ノ增強防空施策ノ增強ニ在ルコトハ明白デアリマス。尙食
糧ノ確保ハ人的戰力ノ維持並ニ其ノ士氣及能率ノ最高度發揮ノ要ト
ナツテ居ルノミナラズ食糧ノ輸送ハ此ノ窮迫セル海上輸送力ノ約六
分ノ一ヲ占メテ居ル狀態デアリマシテ輸送ノ負擔ヲ軽減スル爲ニモ
食糧増産ハ特ニ緊要デアリマス。其他ノ部門ニ付キマシテハ資材勞
力其他ノ面ニ於テ強度ノ壓縮ヲ行ハザルヲ得ナイノデアリマスガ特ニ

鐵力増強ニ直接關係ナキ部門ニ就テハ徹底的ニ抑制スルノ要アルハ
申ス迄モアリマセン

四 來年度ニ於ケル海上輸送力ハ戰局ノ推移ニヨリ變化スベキハ申ス
迄モナイ處デアリマスガ、此ノ點ヲ一應考慮外トシテ見透シヲツケ
マスレバA・B船支援及ABC聯合輸送ヲ含ミ汽船ニ於テ約五八九
八萬屯、運航及北部樞帆船ニ於テ約五三三萬屯即チ昨年秋ノ見透
シニ比シ夫々約七五萬屯及三八五萬屯ノ増減デアリマシテ之ガ主
タル原因トナリマシテ重要物資ノ供給力ニ付テモ別紙ノ通り例ハバ普
通ニ鋼材ニ付テハ約四百萬屯(基準生産分、二割以上ノ減)アルニ
シム約一九萬六千屯(一割減)鋼一三萬屯(約二割減)ノ如ク大幅
ニ減少致シマシタ茲ニ特ニ御注意願ヒタイノハ鐵礦及アルミニ付
ニ極度ニ要請ヲ集中致シマシタ爲副資材例ハバ纖維、計畵ニ付キ
マシテハ輸送力及資材ノ配當ニ付極度ノ壓迫ヲ余儀ナクセラレマシ
タ結果供給力ノ減退ハ更ニ甚シク、超真結物資トノ間ニ格當ノ不均

超真結物資
の
間
に
格
當
ノ
不
均

裏面白紙

衝カ豫慮セララルノデアリマシテ而モ之等物資ニ付テハ既ニ本年度
ノ配當ニ於テスラ民需ハ最小限迄壓縮セラレテ居リマスノデアリ
ノ減少ハ軍需ノ充足ニモ相當ノ影響ヲ及ス虞ガアルコトデアリ
而シテ以上ノ如キ減少セラレタル供給力デスラ之ガ達成ハ從來ニ比
シ比較ニナラヌ大ノ努力ヲ齎シテ居ルノデアリマシテ特ニ左
ノ諸條件ハ之等供給力ノ基礎ヲ爲シ之ガ充足ヲ見ザル場合ニ於テ
ハ計畫供給力ハ根本ヨリ崩壊致スノデアリマスカラ之ガ確保ニ付テ
ハ兩軍當局ヲ始メ各方面ノ御協力ヲ御願ヒ致ス次第デアリマス

(5)

十九年度物動計畫完遂ノ爲ノ必須條件中主要ナル事項

計畫輸送力ノ確保

(1)

三月三日連絡會議決定ニヨル〇船輸送力ノ基礎條件ノ確保

1 A B 補填四月二万總噸五月以降各月三万五千總噸以内

2 A B 解備七月上旬稼働大型一〇万總噸

3 C 船喪失大破各月五万總噸以内

(11)

A B 船支授輸送

A 船年間六三万總噸、B 船三七万六千總噸、A、B、C 船聯合輸送五八万總噸ノ確保

(12)

甲造船一九〇万總噸（内貨物船一三〇万總噸）ノ確保

尙甲造船ノ緊急増強一三五五万總噸ニヨル製鐵量（内二〇万總噸ハ一般配當ニ織込濟）ノ增加分ニ付テハ別ニ確保ヲ要ス

(13)

汽船及機帆船ノ新規徵備ナキコト

(14)

運航機帆船及北部機帆船ノ計畫輸送量（年間運航二四二万總噸）

北部二九一万吨ノ確保

尙之方確保ノ爲乙造船四〇万總噸（貨物船ノミ）建造計畫ノ

遂行

（イ）北海道炭ノ貨車航送ノ三二五千噸、年間二〇〇万噸（之ガ

完遂ノ爲ニハ航送船ノ計畫通りノ竣工ヲ要ス）

（ロ）九州炭ノ本州向陸送ノ一五〇万噸年間六五〇万噸

（ハ）大陸物資ノ朝鮮中継輸送ノ一〇二〇万噸

三、民需用液体燃料ノ確保

（一）機帆船用、工業用、自動車用等ヲ含メ、各月最低約一〇万軒

三、普通鋼材供給力（年間四五五万噸第一、四半期一一五万五千

噸）ノ確保ノ爲ノ條件

（イ）第一、四半期

海上輸送ノA、B船支援助加

原料炭二〇万噸（第一、四半期）（備考不足量三八万一千噸）

裏面白紙

純鋼六万五千吨(右全)

兩万マンガン鋼一万七千吨(右全)

A、B 府鐵供出既定四万吨ノ外追加八万五千吨(第一、四半期)

(備考 本項ニ付テハ更ニ復前ノ様アリ)

年間

非常回收 四七万五千吨(専活用品含ム)

小型熔鑪爐鏡 六一万五千吨

鐵礦石 内地四五〇万吨

特殊鋼屑供出 二六万三千吨

(尙北 漁業ヲ實施スルトセバ 鐵鋼供給力トノ調整ヲ必要トス)

アルミニウム供給力確保ノ爲ノ條件

A B 八第一、四半期(第一、四半期初頭ヲ含ム)ニ於テアルミニウム五万吨ヲ増送ス

民需用資材現物入手ノ確保

特ニ草需ノ超過取得ヲ絶無ナラシムルコト

(尙十八年度未入手資材ノ現物化ニ付テハ別途對策ヲ要ス)

(8)

六集

次ニ以上ノ様ナ計畫ノ實施ニヨリ我國産業經濟方面ニ如何ナル影響ヲ及スカニ付御説明致シマス固ヨリ年間ニ亘ル影響ハ今後ノ戰局推移ノ狀況ニヨリ大ナル變化ヲ受クベキハ當然豫想セラルル處デアラスノデ今ヨリ一概ニ之ヲ斷定スルコトヲ得ナイノデアリマスガ應ノ見透シヲ申述ベマスレバ次ノ通りデアリマス

(一) 石炭ニ付テハ輸送力ノ重點形成ノ結果次ノ如キ影響ヲ生ズルノデアリマス即チ配當船復ハ $\frac{3}{8}$ ニ於テハ月約一二〇萬噸ナルニ比シ $\frac{1}{9}$ ハ約六〇萬噸而モ此ノ中製鐵用炭ニ付テハ殆ンド減少致シマセンノデ一般用炭ノ輸送ハ約三分ノ一ニ減少シ、之ガ爲地場出炭ヲ最大限度ニ織込ミタルニ拘ラズ本州ニ於ケル配炭可能量ハ十八年度下期ニ比シ東部ニ於テ約二七%、西部ニ於テ一六%ノ減少トナルノデアリマス。而ルニ鐵鋼、輕金屬、造船、鐵道、瓦斯等重點部門ニ付テハ殆ンド削減不可能デアリマスノデ其他ノ部門ニ對スル配炭ハ東部ニ於テ五〇%、西部ニ於テ七八%トナリ實ニ容

(P)

易ナラヌ状態デアリマス既ニ現在ニ於テスラ石炭ガ生産ノ隘路ヲ
 爲シテ居ル部門ハ相當ノ範圍ニ及ンデ居ルモノト認メラルルノデ
 アリマスカラ、來年度ニ於テハ上記部門以外ニ於ケル操業ハ極度
 制約ヲ受ケ航空機、造船等ノ廻生部門ニ對シテモ其ノ因縁産
 業ニ於テ重大ナル隘路ヲ形成スベキ虞ガアリ 尙國民生活用物資
 主要食糧ヲ除キ殆ンド配給停止ニ近イ状態トナル虞ガアリマス
 デ之ガ爲ニハ輸送力面ノ解決ノ外、石炭使用面ニ於テモ凡ユル
 創意工夫ヲメグラス等徹底セル対策ヲ實行スル必要ガアリマス以
 下影響ノ主要ナルモノヲ甲上ゲマス
 一 一般機械金屬工業ニ於テハ廻生工場ノ協力工場、下請工場
 等ノ操業ハ著シク困難トナリ、親工場ノ生産トノ間ニ大ナル不
 均衡ヲ來ス虞ガアリ 曾達ニ付キマシテハ輕金屬ノ増産ノ爲他ノ
 需要部門ニ大壓縮ヲ加フルコトトナリ無機藥品、硝子等航空機
 ノ附帯化學工業ガ航空機増産ヲ制約シ又耐火煉瓦ノ減産ハ鐵鋼



生産ニ支障ヲ及ボスロトガ豫想セラレマスノデ實施ニ於テ所與
ノ調整ヲ圖ラネバナラヌト存ジマス

(四) 電力ニ於テハ夏季ノ給水ニ對シテモ直ニ電力制限ヲ發動スル
必要ガ至スルノミデナク、冬季ニ備フル貯炭ハ十八年度ニ比シ
相當減少致シマスノデ冬季ノ電力供給ハ相當ノ混亂ニ陥ル虞ガ
アリマスノデ豫メ對策ヲ樹テル必キガアリマス

(五) 織造工業ニ付テハ本州東部ニ於テハ若干ノ工場ヲ除キ配炭ノ
停止ヲ行ハサルヲ待ス民需品ハ殆シド製造ノ餘地ナキノミナラ
ス單需ノ供給モ激減ヲ豫想セラレマス

(三) 家庭用燃料

煉炭ハ激減スルノミナラス家庭用瓦斯ノ消費減正モ更ニ一役ト
強化スルヲ要スベク小運送等ノ隘路ニヨル新炭ノ確保雖ト相俟
チ家庭用燃料ニ付テハ益々窮迫ヲ加フルコト必定デアリマス

(11)

(二) 次ニ普通鋼鋼材ニ付テハ前述重點施策ニ極度ニ集約致シ次ノ如キ結果ヲ豫想セララルニ至ツタノデアリマス

(イ) 甲造船(BX)二五五万總噸案遂行ニ要スル資材ハ最低一七〇万噸デアリマシテ、配當量ノ一二七万噸トノ差額ハ物動計畫織込造船量(一九〇万總噸)ニ對スル増産分ノ船腹ヲ全部鐵鋼増産ニ還元スルコトト致シマシテ之ニヨル増産分中一般計畫へノ繰入分(二〇万噸)ノ殘ヲ以テ補填スルト云フ計畫ヲ進ンデ居リマス

(ロ) 陸運増強(OX)

日滿支南方各地域ノ鐵道輸送力増強竝ニ之ニ關聯スル重要港灣施設用資材ハ十九年度物動織込輸送力確保上最小限度ノ必要數量ハ約四五万噸デアリマシテ本配當デハ約一二万噸ノ不足デアリマス。特ニ來年度ノ物動輸送力ヲ確保スル爲ニハ上半期中ニ施設ノ完了ヲ要スルモノガ大部分デアリマスガ第一、四半期七万七千噸ノ配當ニ依ツテハ大動脈タル東北、山陽兩

(72)

線増強ノ一部ヲ實施シ得ルニ過ギズ鐵礦石、非鐵金屬鑛石等ノ増産ニ即應スル支線ノ増強ハ殆トナリ、又車輛ニ於テハ今回ノ旅客輸送ノ抑制ニヨリ若干ノ機關車ヲ捻出シ得ルトシテ貨車ノ製造ニ全力ヲ集中スルモ約二、三〇〇輛程度デアリマシテ輪轉材料ノ不足ニヨリ計畫輸送量ノ完遂ハ至難デアリマス尙朝鮮、北支等ニ於テハ更ニ窮迫ノ度甚シク現狀ヲ以テセバ南滿中韓輸送力或ハ鐵鋼、輕金屬、石炭等ノ地場生産輸送ノ二者中何レカヲ犧牲ニ供スルノ外ナク、之ガ匡救ニ付テハ滿洲國ノ絶大ナル援助ニ期待スル次第デアリマス

乙 造船

配當總額一〇〇千屯中内地分ハ八〇千屯デアリマシテ之ヲ以テ本年度ノ繰越分ヲ含ミ貨物船四〇万總屯、油槽船五万總屯其他若干ヲ建造スル計畫デアリマス尙第一、四半期ノ配當ハ本年度第四半期ニ於テ行政査察ノ結果相當ノ現物資材ヲ入手セルコトヲ考慮シテ定メマシタ

1940年 40年
7月 抄本

(二) 生産擴充(02)

輕金屬並ニ石炭、鐵礦石、非鐵金屬鐵石等國內地下資源ノ増産ニ重點ヲ集中シ夫々計畫目標達成ニ必要ナル最小限度ノ資材ヲ辛ジテ充足シ得マスガ、其他ノ部門ニ付テハ擴充ハ全面的ニ之ヲ停止シテ尙補修及運轉資材ニ不足スル状態デアリマシテ超重點部門以外ハ資材面ヨリシテモ本年度ニ比シ相當ノ減産ヲ來ス虞ガアリ、戰爭ハ今後尙長期ニ亘ルコトヲ豫想セラレマスノテ、根本的ニ再檢討ヲ要スルモノト存ジマス尙戰力增強非常措置ニヨル特配資材ニ付テハ其ノ大半ガ未ダ現物化シ得ナイ状態デアリマスガ之ガ資材ハ來年度供給力ノ基礎ヲ爲シテ居リマスノテ至急對策ヲ講ズルノ要ガアルモノト認メラレマス

(三) 官需(03)

年間二万九千廳ハA B 支接ヲ含ム本年度計畫ニ對シ五五%デ

(14)

アリマス官需ノ内容ハ累年ノ戰時的編成替ニヨリ今ヤ殆ド全部ガ軍ニ關スル附帶施設、重要物資ノ生産用緊急要員ノ養成技術研究等ヲ構成セラレテ居ル狀況デアリマス

乙 一般民需(05)

一般民需ハ連年壓縮ニ壓縮ヲ重ネテ參リマシテ昭和十五年度ニ於テ八〇万觔程度アリマシタモ、ガ十八年度ハ約三〇万觔、十九年度ニ於テハ食糧増産、木材増伐竝ニ軍及生産擴充關係ノ計畫ニ照應スルモノ以外ハ一切新規事業ヲ認メザルコトトシ、且其他ノ民需ニ付テハ本年度ニ比シ更ニ二割乃至五割程度ノ大幅壓縮ヲ加フルモノトシテモ最低二七万觔程度ガ必要デアリマスガ之ヲ一八万觔ニ削減致シマシタノデ食糧及木材ノ増産計畫ヲ含メ一切ノ新規事業ヲ停止スルモ、包装用及運轉用需要ノ最小限度ヲ充足スレバ補修需要ノ一少部分ノミヲ充足シ得ルニ止ル状態デアリマス

而シテ一般民需ハ食糧ヲ主トスル國民生活ノ確保ノ任務ノ外、
小運送、木材ノ生産、生擔産業以外ノ化學工業、纖維工業、
瓦斯事業等ノ附帶産業、道路、橋梁、港灣、河川、勞務者住
宅等ノ附帶施設、重要産業ノ協力工場、專屬工場等ノ維持増
強任務ヲ有シ、而モ現在デスラ之等ノ部門ガ増産ノ最大ノ隘
路ヲ爲シテ居ル折柄斯ル配當デハ到底今後ノ持久ハ期待シ得
ザルノミナラズ軍需及生産擴充方面ニ對スル惡循環ヲ避ケ難
イト考ヘラレマス特ニ第一四半期、三万越強ノ配當ハ全體ノ
需給關係ヨリ止ムナク壓縮シタ數字デアリマシテ第三四半期
以降相當ノ増配ヲ豫想シ此最モ窮迫セル期間ヲ強行突破セン
トスルモデアリマス尙一般民需ニ付キマシテハ從來屑物規
格外品等ガ物動外トシテ相當供給セラレテ居リマシタガ最近
ハ此等モ全部統制セラレテ計畫ニ組入レラレマシタコト及一
般民需ヲ極端ニ壓縮スルトキハ軍需及生産擴充方面ノ資材ガ
阻礙ニヨリ横流シスル虞アルコトヲ特ニ附言致シテ置キマス

(H) 防空 (C Z)

戦局ノ情勢ニ鑑ミ防空用資材ノミハ特ニ本年度ニ比シ約五割増ヲ配當スルコトトシ、重要工場並ニ鐵道、通信ノ防備ニ重點ヲ置キ緊要ナル施設ヲ整備スルト共ニ民一救防空ニ關シテハ消防ヲ主眼トシ一部救護施設ヲ整備スル方針デアリマス但シ防空用資材ハ大部分ヲ上期中ニ配當スルヲ要スルノデアリマスガ第一四半期ハ年間ノ四分ノ一程度デアリマスノテ消防ポンプノ整備ノ外ハ重要工場防空施設ノ一部ヲ實施シ得ルニ過ギマセン

(イ) 輸出用 (C 4)

滿洲、支那及乙地域ニ對スル輸出用ノ需要 (機械ヲ主トス) ハ約一萬噸ニ達スルノニ對シ配當ハ四割ニ過ギズ特ニ滿洲ニ於ケル農地造成計畫ニ對スル資材配當モ相當削減セザルヲ得ナイ狀況デアリマス、鋼材以外ノ物資ニ於キマシテモ鐵鋼及輕金屬ニ極度ニ重點ヲ集

(17)



中シマシタ結果、既ニ石炭ノ頃テ甲上ゲマシタ様ナ影響カアル外
ゴム、皮革、紙、砂糖等主トシテ海上輸送力ニ依存スル物資ニ付
テモ本年度ニ比シ更ニ大巾ノ壓縮ヲ餘儀ナクセラレ之ガ爲民需ハ
一層窮迫スル見込デアリマシテ例ヘバ地下足袋ハ本年度計畫ノ三
分ノ一程度トナリ砂糖ハ業務用ハ配給停止、家庭用ハ〇・三斤程
度、新聞用紙ヲ除ク爾餘ノ紙類ハ激減スル見込デアリマス
以上詳細ニ申述べマシタ様ニ本計畫ノ完遂ニ付テハ各方面ノ全幅
的協力ノ下ニ國家總力ノ最高度發揮ヲ要シ且之カ實施ニヨリ一般
産業及國民生活ノ蒙ルベキ高度ノ壓迫ニ對處シ之ガ戦力増強上懸
影響ヲ及ボスコトナキ様斷乎タル對策確立ヲ要スルノハ勿論デア
リマスカ更ニ計畫ノ基礎ニ於テ次ノ如キ點ニ關シ重大ナル問題ヲ
含ンデ居リマス即チ

(1) 計畫供給力構成ノ條件中ニハ現状ニ於テハ實現容易ナラザ
ルモノヲ多數含ンデ居ルコト

(ロ) 輸送及生産用資材等ニ付時日ノ關係上十分ナル檢討ヲ盡サザルモノアルコト

(ハ) 生産、輸送等ニ付計畫量確保上最少限度必要ナル資材ニ付オモ割當不足ノ部分少ラザルコト

(ニ) 鐵鋼(特ニ普通鋼鋼材)及アルミニ極度ニ重點ヲ集中セル結果其他ノ物資ノ供給力ハ上記ニ物資ヲ基礎トスル計畫ニ追隨シ得ズシテ兩者ノ間ニ不均衡ヲ生シアルコト

等本計畫ノ達成ニ就キマシテハ尙幾多ノ調整ヲ要スベキ點アルコトハ痛感致シテ府ルノデアリマスガ之等全部ニ付遺漏ナク調整致スナラバ當面ノ戰局ノ要請ニハ絶体ニ即應スルコトカ出來ナイコトナルノデアリマス依ツテ先ニ甲述ベタル部門ニ對シ最大限度ニ重點ヲ集中致シタル次第デアリマシテ第一、四半期程度ノ民需壓制ヲ長期ニ亘リ繼續致シマスコトハ國力ノ基盤ヲ朽ラスコトトナリ到底不可能デアリマシテ今次實施計畫ハ一重ニ直接的戰力増強

(19)



ニヨル戦局ノ轉換竝ニ甲造船ノ飛躍的増進ニヨル国力増強ニ期待
シテキルノデアリマス而シテ上述ノ各局面ニ亙ル問題ニ付テハ戰
局ノ推移ヲ注視シツツ情勢ノ變轉ニ即應シツツ計畫實施途上ニ於
テ逐次調整ヲ圖ツテ参リタイト存ジマス、

尙最后ニ特ニ統師部ノ御了解ヲ載キタイコトハ今次危局克服ノ爲
ニハ軍官民眞ニ一体トナリ戦力増強就中生産ト作戰トノ緊密ナル
連携調整ヲ圖ルコトガ特ニ必要デアリマシテ兩軍ニ於テハ作戰ノ
小康間隙等ヲ利用スルノミナラズ進シテ機會ヲ作爲シ重要物資ノ
輸送生産ニ對シ絶大ナル協力ヲ與ヘラレンコトヲ切望致ス次第デ
アリマス

尙右ノ外、戦力増強ニ寄與スベキ重要諸政策ハ餘ス處ナク之ヲ強
果敢ニ具現化スルト共ニ特ニ左ノ點ニ付テモ各方面就中車ノ格
段ナル御盡力ヲお願い致シタイノデアリマス
一、海上輸送力特ニ高能率源取得ノ爲兩方輸送路ノ安全確保
二、大東亞共榮圈經濟戦力ノ緊急結集

以上ヲ以テ御説明ヲ終リマス

(20)